

原子炉廃止措置 研究開発センター

◎「ふげん」プラント作業状況

「ふげん」では、原子炉の冷却に使用されていた設備等の解体撤去作業で発生する放射性物質の付着した配管材等に対して、レーザーによる切断実証を行うこととしています。

世界でも初めての試みである原子炉施設の放射性物質の付着した配管等へのレーザー切断技術の適用に向け、有用な実証データが得られるものと期待しています。



【上:レーザー切断装置】



【右:模擬配管の切断風景】

レーザー共同研究所

◎第6回 成果報告会

レーザー共同研究所は、今年11月に、設立以来6回目となる成果報告会を開催し、来賓の澁川敦賀市長をはじめとして、県内外から2日間でのべ110名の参加者を迎えました。

報告会を通じ、レーザー加工技術の高度化やその原子力分野への応用展開など、この1年間で培われた敦賀発の研究成果を広く発信するとともに、産学官の幅広い分野にわたる研究者・技術者との研究交流を深めることができました。



【大道所長による基調講演】



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

本年中は、原子力規制委員会から勧告がなされるなど、大変ご心配をおかけいたしました。来年は、引き続き安全確保に万全を期しつつ、課題の解決に全力で取り組んでまいりますので、より一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 一同

原子力規制委員会の勧告について

平成27年11月13日、原子力規制委員会から文部科学大臣に対して高速増殖原型炉「もんじゅ」の運営に関する勧告(*1)がなされました。

この勧告について、同日、当機構理事長から声明を発表いたしました。

原子力規制委員会の勧告について

平成27年11月13日
日本原子力研究開発機構
理事長 児玉敏雄

本日、原子力規制委員会から文部科学省に対して、高速増殖原型炉「もんじゅ」の運営に関する勧告がなされました。

私は、本年4月の日本原子力研究開発機構理事長就任以来、「もんじゅ」の抱える課題とそれを乗り越えるための方策について検討して参りました。そして、保全計画の抜本見直し等により、来春には保守管理不備問題を解決していく決意を11月2日の原子力規制委員会で表明致しました。しかしながら、原子力規制委員会からご理解を得られずこのような事態に至ったことは誠に残念であります。

日本原子力研究開発機構は、長期間に亘る実験炉「常陽」の運転経験やナトリウム取扱い技術等を蓄積し、設計・建設段階から「もんじゅ」プロジェクトを実施してきました。「もんじゅ」を通じて開発成果を確実に生み出していくことは、日本原子力研究開発機構の責務です。また、日本原子力研究開発機構は、現時点において「もんじゅ」を預かる当事者であり、「もんじゅ」の安全について責任を有していることに変わりありません。

私としては、原子力規制委員会で説明した保守管理プロセス総合チェックや保全計画の抜本見直しなどの徹底的な改善に全力を傾注し、その成果をお示しすることにより、日本原子力研究開発機構の責務を果たしていく所存です。

以上

(*1)高速増殖原型炉「もんじゅ」の運営に関する勧告の内容

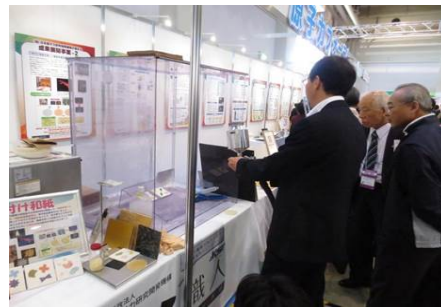
次の事項について検討の上、おおむね半年を目途として、これらについて講ずる措置の内容を示されたい。

- 一. 機構に代わってもんじゅの出力運転を安全に行う能力を有すると認められる者を具体的に特定すること。
- 二. もんじゅの出力運転を安全に行う能力を有する者を具体的に特定することが困難であるならば、もんじゅが有する安全上のリスクを明確に減少させるよう、もんじゅという発電用原子炉施設の在り方を抜本的に見直すこと。

敦賀連携推進センター ◎北陸技術交流テクノフェア2015に出展

敦賀連携推進センターでは、地域との共生の観点から、地域産業界との連携を更に強化するため、技術相談や公開のセミナー開催などを通じて、技術移転による成果普及活動を大きな業務の柱の一つとして積極的に取組んでいます。

本テクノフェア(10月8日、9日)では、機構の研究成果を活用した和紙やメガネ、刃物などの製品を展示し、特に吹付け和紙のデモンストレーションでは、来場者から様々な意見をいただき、更なる商品展開に期待がかかります。



【展示ブースで技術移転により実用化された商品を説明】

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 業務管理部 広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>
発行:平成27年12月

保安措置命令解除に向け、保守管理上の不備の解決を目指し取り組んでまいります

解決すべき課題への取組み

- 保全計画の見直し
来春までに保全計画の重要設備の見直し完了
- 未点検設備の解消
来春までに残るA、C系列、追加の未点検機器の点検を全て完了
- 根本原因分析(RCA)に基づく対策
実施中対策の有効性評価を実施し、評価結果により、対策を修正・追加

潜在する根本的な課題を解決すべく、「**オールジャパン体制の特別チーム**」で、保守管理業務について今一度原点に立ち返り潜在している問題を徹底的に洗い直し、地道な改善活動を浸透させてまいります

潜在する根本的な課題とその対策

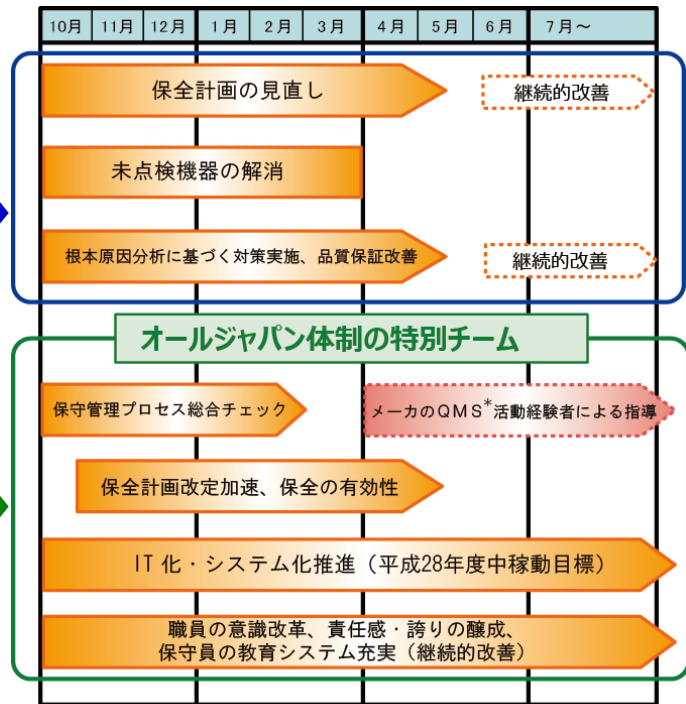
- 根本的課題への取組み
機構内メンバーに加えて、設計製作ノウハウを有するメーカー、運転・保守に関する経験とスキルを有する電力等の民間の知恵を結集した**オールジャパン体制の特別チーム**により、**潜在する課題の洗い出しと対策加速等を実施**
(保守管理プロセス総合チェック、保全計画改定加速、保全の有効性評価)
- 経験が少ない人材の活用のため、保守管理業務のIT化・システム化を強かに推進
- 若手職員に対するモチベーションの向上も含めた教育に力点

もんじゅ決起集会（平成27年12月2日開催）



オールジャパン体制で早期課題解決に向け、来春春までに「もんじゅ」が確実に前進していることを示していこうとの決意を述べた児玉敏雄理事長(左)、青砥紀身もんじゅ所長(右)

保守管理上の不備への取組み



*) QMS: 品質マネジメントシステム

これらの課題については改善の過程で生じているものであり、「もんじゅ」の現在の状態で機能要求される「冷やす」「閉じ込める」機能は確保されており、プラント状態は常時運転員が監視して異常がないことを確認しているなど、「もんじゅ」の安全性は引き続き確保されております。
今後とも「もんじゅ」の安全確保に万全を期しつつ、保守管理に関する根本的な問題の解決に取り組んでいく所存です。